

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①読み、書き、計算などの基礎学力の定着 ②学習内容を他教科や実生活と関連付けて学習する力	③聞いたり読んだりしたことを正しく理解する力 ④自分の考えを、理由や根拠を入れて書き、発表する力	⑤進んで表現し、粘り強く課題に取り組む力 ⑥児童が自ら学習を振り返り、次の学習につなげる力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①③	①言葉集めや音読、読書の習慣を付け、読む、書く力の向上を図る。 ③文と文のつながりを意識させながら文章を読み、挿絵からも情報を読み取らせる。	
算数	①⑥	①加法・減法・乗法を繰り返し練習し、定着させる。 ⑥学習の振り返りをし、次時へ活用しようとする意欲をもたせる。	
生活	②④	②他教科との関連を図りながら、指導計画を作成する。 ④実践的な態度を認めて共有し、活動を深めたり広げたりするために自分の考えを伝え合う交流の場を多く設定する。	
音楽	②	②音や音楽に親しむことができるように、身体表現を多く取り入れる。	
図画工作	⑤	⑤基本的な表現技能を見に付けさせ、表現する喜びを味わうことができるようにする。	
体育	⑤⑥	⑤様々な運動遊びを知り、運動やゲームの仕方を考えたり、工夫したりする。 ⑥友達のよいところを見付けたり、まねしたりできるようにする。	
英語活動	⑥	⑥簡単なあいさつや、英語を知り、普段の生活の中で使ったり遊んだりできるようにする。	
特別の教科 道徳	②	②授業で扱う内容を、自分のこととして捉え、自己や他者について考える。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①一般的な語句や専門用語などの語彙力 ②既習の学習をもとにして新たな知識を学習する力	③記述されている内容を正しく理解する力 ④自分の考えを、理由や根拠を入れて記述する力 ⑤既習事項から考えを広げ、表現する力	⑥粘り強く課題に取り組む力 ⑦児童が自ら学習をふり返り、次の学習につなげる力 ⑧友達と関わりあいながら、自己の学びに生かす力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①③	①新出語句とそれに関連した語句を調べて理解する取組をする。 ③語や文のまとまり、内容を考えながら音読や文章を書く取組をする。	
社会	④⑤	④資料から事象を読み取り言葉に表す取組をする。 ⑤考えを伝え合う場を意図的に作る取組をする。	
算数	②⑤⑥⑦	②本時の知識を確かにするための取組をする。 ⑤問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて表現し、伝え合う活動を多く取り入れる。 ⑥⑦根拠を基に筋道を立てて考えたり、学習の振り返りをしたりすることで、活用しようとする意欲を持たせる。	
理科	②④	②既習事項を生かし、基本的な実験技能を身に付ける取組をする。 ④分かったことを自分の言葉で記述する取組をする。	
音楽	①②④	①②④語彙力（音楽を表す言葉）を増やし、感じ取ったことや気づいたこと、どのように表現したいかを、音楽的な言葉や理由と関わらせながら友達と話し合ったり演奏表現をしたりしていく取組をする。	
図画工作	⑤⑥⑧	⑤様々な身近材料を準備し、多様な見方や感じ方ができるようにする取組をする。 ⑥基本的な表現技能を身につけさせ、表現する喜びを味わうことができるようにする。 ⑧友達の作品の良いところを文章や言葉で伝え合う取組をする。	
体育	②⑥⑧	②運動知識を正確に理解するための取組をする。 ⑥自分の課題に合った活動の仕方を選択し取組をする。	

		⑧運動の仕方や課題を個人やチームで考える取組をする。	
外国語活動	①⑧	①アルファベットカードを活用して大文字・小文字の形や音に慣れ親しませる取組をする。(フラッシュカードの活用等) ⑧簡単なやりとりの内容を類推しながら聞くことや簡単な表現でALTや友達に尋ねたり答えたりできるようにする取組をする。	
特別の教科 道徳	④⑧	④自分の考えを伝え合い多面的に話し合う取組をする。 ⑧対話等から自分の考えをノートに記し、振り返る取組をする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組 (高学年)

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①言語能力育成のための語彙力 ②既習の知識をもとにして、新たな知識を学習する力	③記述されている内容を正しく理解する力 ④自分の考えを、理由や根拠を裏付けて記述する力 ⑤自分の考えを、理由や根拠を裏付けて発表する力	⑥難しい問題に対して、粘り強く取り組む力 ⑦筋道を立てて、しっかり考え、見通しを立てたり、振り返ったりする力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①②③④	④目的や意図をキーワードとして提示するなど、学習のめあてを明確にし、めあてに沿って自分の考えを書かせる。 ①③読みを深めたり、読書に対する意欲を高めたりするために、作者の他の作品を紹介したり、実際に読ませたりする。 ②学習内容を他教科や実生活と関連付けることで定着させる。	
社会	④⑤	④複数の資料を関連付けながら、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えていく活動を効果的に取り入れる。 ⑤授業の中で、社会に見られる課題について、自らの関わり方を考える時間を設ける。	
算数	②⑤	②児童が主体となって「問い」をキーワードとした問題解決が進められるようにするために、「問いカード」を活用した問題解決の授業を行う。 ⑤学習内容についての理解を深めるために、自分の解決	

		方法について説明する活動を多く取り入れる。 ②復習プリントを活用し、学習の習熟を図る。	
理科	④⑤⑦	⑦予想したり、実験の結果について考察したりする中で、自分の考えをもてるようにする。 ④⑤自分の立てた予想や実験・観察の結果について、根拠や理由を書かせたり、話し合わせたりする時間を設定する。	
音楽	①②④	①②④⑧既習の学習をもとに語彙力（音楽を表す言葉）を増やし、感じ取ったことや気づいたこと、どのように表現したいかを音楽的な言葉や理由と関わらせながら友達と対話したり演奏表現を広げていく取組をする。	
図画工作	④⑤	④⑤名画などの代表的な作品を鑑賞する活動を通して、感じたことを話し合ったり、作品のよさを伝え合ったりする学習活動を行う。 ⑤道具を適切に扱う技能を身に付けさせ、自分の思いをよりよく表現させる。	
家庭	②⑦	②実習や観察、調査を通し基礎的、基本的技能を身に付けさせる。 ⑦実践的な態度を育てるために、家族の一員として家庭生活に見通しをもたせる。	
体育	⑤⑥	⑤考えを伝え合う場や見合う場を設定し、考え学び合いながら活動できるようにする。 ⑥ペアやチームでの活動を多く取り入れることで、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	
外国語科	②	②2人のALTとの交流の機会を数多く作ったり、デジタル教科書を効果的に活用したりすることで、外国語の音声を十分に聞いたり、思いを表現させたりする経験をさらに積ませる。	
特別の教科 道徳	⑥⑦	⑥問題解決的な学習を取り組ませ、自分の経験と重ねて考えさせる。 ⑦学習して分かったことや考えたことを自分の言葉で道徳ノートに記入し、常に自分自身で振り返ったり、自分自身の生き方について考えたりすることができるようにする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

- | | |
|---------------------------------|---|
| ○ 道徳の時間の充実 | ・ 毎月19日を「徳の日」とし、道徳ノートを家庭で確認していただくなどの取組を行う。 |
| ○ 学習形態の工夫と組織づくり | ・ 担任とT・T担当の教師やアップースマイルサポーターとの打合せの時間を設け、個別に対応が必要な児童や、個々の習熟度の様子を話し合い、個別に合った支援を行えるようにする。 |
| ○ 理科専科による高学年の授業 | ・ 5、6年生の理科の授業を理科専科教員が行い、より専門的な知識や学びが行われるようにする。 |
| ○ 毎週金曜日のぐんぐんタイム(マラソン)の取組 | ・ 金曜日の業間休みを「ぐんぐんタイム」と位置付け、5分間のマラソンを行い、体力向上につなげる。 |
| ○ 毎週水曜日の昼休みの時間を「あずまっぴータイム」に位置付け | ・ 「あずまっぴータイム」には、講話集会や児童集会、縦割り班活動、ロング昼休みなど隔週で行い、児童の豊かな心を育成する。 |
| ○ 高学年での一部教科担任制の実施 | ・ 6年生では、教科の一部に教科担任制を取り入れ、中学校への接続をスムーズにできるようにする。また、学年の担任全員で一人一人の児童の成長を支援できるようにする。 |

家庭教育との連携

- | | |
|----------------------------------|---|
| ○ 学校の教育活動の見える化 | ・ 個人面談、懇談会、連絡帳、学年だより等で情報を発信したり、ホームページやさくら連絡網等を活用しての教育活動等の紹介を各学年月に1回以上行ったりし、本校の教育活動への理解と協力を促す。 |
| ○ 家庭学習の取組 | ・ 学習の基礎基本である音読や計算の課題を毎日出す。また、デジタルドリルを活用し、自分の習熟にあった課題に取り組み、基礎学力の定着を図る。 |
| ○ 年間2回の授業参観日と公開日、英語・外国語授業公開週間の実施 | ・ 年間2回の授業参観日と年間2回の公開日を実施し、本校への教育活動への理解と協力を得られるようにする。また、2月に全クラス外国語活動や英語活動、外国語の授業時間を1週間公開し、本校児童の英語への取組を評価・理解していただく。 |